

高知県感染症発生動向調査（週報）

2017年 第41週 （10月9日～10月15日）

★お知らせ

○RS ウイルス感染症に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第40週の4.10から第41週では2.50と引き続き減少しています。幡多で急減、高知市、中央東、須崎、中央西で減少しています。

年齢別では、1歳以下の報告数が全体の75%を占めています。

この病気は軽い風邪様の症状で発症し、通常1～2週間で軽快しますが、授乳期早期（生後数週間から数ヶ月）にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。特に、低出生体重児や心臓や肺に基礎疾患がある場合、神経や筋肉の疾患がある場合、免疫不全が存在する場合には重症化のリスクは高まります。一方で、年長児や成人は、感染しても症状が軽いことが多く、気が付かずに感染源となる可能性があるため注意が必要です。また、高齢者においても急性のしばしば重症の下気道炎をおこす原因となるため、特に長期療養施設内での集団発生が問題となる場合があります。

予防接種ワクチンはなく、患者の咳、くしゃみなどによる飛沫感染、感染している人との濃厚接触、ウイルスが付着した物品を触ることによる接触感染により感染するので、風邪と同様にマスクの着用（咳エチケット）と手洗いによる予防が有効です。乳幼児への感染を防ぐため、咳などの症状がある人になるべく接触させないようにし、看護する人も手洗いを十分に行ってください。また、早産児や慢性呼吸器疾患を有するハイリスクな乳幼児には重症化予防のため、パリビズマブ（抗RSウイルスヒト化モノクローナル抗体）の投与があります。（本剤の添付文書では、投与に際しては学会等から提唱されているガイドライン等を参考とし、個々の症例ごとに本剤の適用を考慮することとされており、保険適用となっています。）

●厚生労働省 「RS ウイルス感染症 Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

●国立感染症研究所 「注目すべき感染症 RS ウイルス感染症」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/541-disease-based/alphabet/respiratory-syncytial/dsc/idwr-topic/7509-idwrc-1734.html>

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第40週の2.87から第41週では2.53と横ばいです。県全域から報告があり、安芸、幡多で急減していますが、中央東、須崎で増加しています。

定点医療機関からのホット情報ではノロウイルスが13例、細菌の病原性大腸菌やカンピロバクター属菌を原因とする胃腸炎6例の報告もあります。

また、学校等欠席者・感染症情報システム※でも13例の報告があることから引き続き注意が必要です。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、主に冬場に流行しますが1年を通して発生しています。嘔吐、下痢が主症状ですが、その他、発熱、腹痛などの症状があります。特に、乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度ウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

予防対策のため、帰宅時や調理前・食事前、トイレの後に石けんでよく手を洗いましょう。また、感染した人の便やおう吐物には、直接触れないようにし、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認したうえで使用し処理しましょう。（使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処理しましょう。）調理をする場合は、十分加熱（85℃で1分以上）しましょう。

また、細菌による感染性胃腸炎のほとんどの場合、患者との接触（便など）や汚染された水、食品によって経口的に感染します。予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（①つけない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱（85℃で1分以上）は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけて下さい。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関する Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○インフルエンザに気を付けて！

第 41 週の定点医療機関当たりの報告数が 0.06 となっています。全て中央東からの報告で、迅速診断では全てインフルエンザ B 型となっています。

また、学校等欠席者・感染症情報システム※でも 5 例（インフルエンザ A 型 1 例、インフルエンザ B 型 4 例）の報告があります。

これからの時期は空気も乾燥し、インフルエンザウイルスが活動しやすい時期となります。インフルエンザの感染力は大変強く、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が拡大することから、集団生活の場では特に注意が必要です。

予防対策としては手洗い、咳エチケットのほか予防接種がありますので、かかりつけ医療機関にお尋ねください。

インフルエンザワクチンを接種してから抗体ができて予防効果が発現するためには、約 2 週間かかり、約 5 ヶ月程度持続すると言われていたことから、12 月頃までに接種を完了することが望めます。予防接種には、インフルエンザウイルスに感染した場合に発症を一定程度抑える効果や重症化を予防する効果が認められています。

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

☆野外活動の際にはマダニに注意！

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は比較的大型（吸血前で 3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは野山、草地、畑、河川敷などに広く生息しています。屋外でキャンプ、ハイキングなどのレジャーや農作業をする場合には次のことに注意しましょう。（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（マダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

また、このたび発熱・衰弱等に加え血小板減少等の所見が見られた飼育ネコ及び飼育イヌの血液・ふん便から SFTS ウイルスが検出された事例並びに、体調不良のネコからの咬傷歴があるヒトが SFTS を発症し死亡した事例が確認されました。これらの事例は稀な事例ではありますが、イヌやネコの体液等からヒトが感染することも否定できないので、体調不良の動物に接触した後、発熱等の症状が出た時には医療機関を受診して下さい。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

●重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html

●高知県衛生研究所 マダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	有効持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用 医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児には 使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を腐食することもある
	12%	防除用 医薬品	約3時間		
	高濃度製剤 30%	防除用 医薬品	約6時間		
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	～6時間		
	高濃度製剤 15%	防除用 医薬品	6～8時間		

※国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋

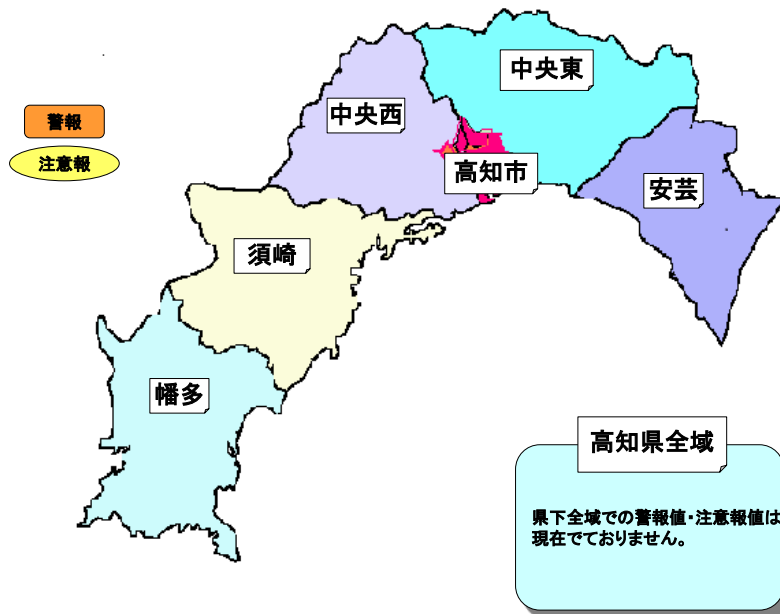
※市販の虫除け剤(忌避剤)は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	2.53	安芸、幡多で急減していますが、中央東、須崎で増加しています。
RSウイルス感染症	↘	2.50	幡多で急減、県全域、高知市、中央東、須崎、中央西で減少しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	1.00	高知市、須崎、中央西、安芸で急減、県全域で減少していますが、幡多で急増、中央東で増加しています。
手足口病	→	0.60	幡多で増加しています。
水痘	→	0.23	中央東、高知市、幡多で急減していますが、須崎で急増しています。

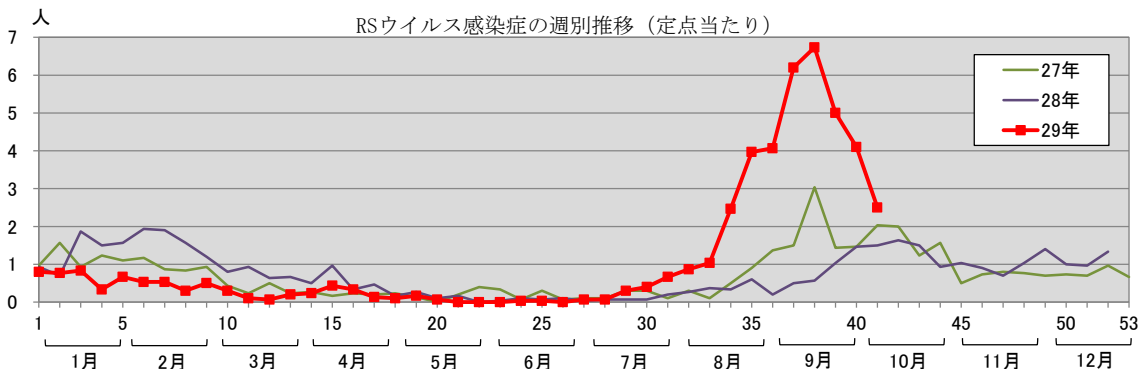
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

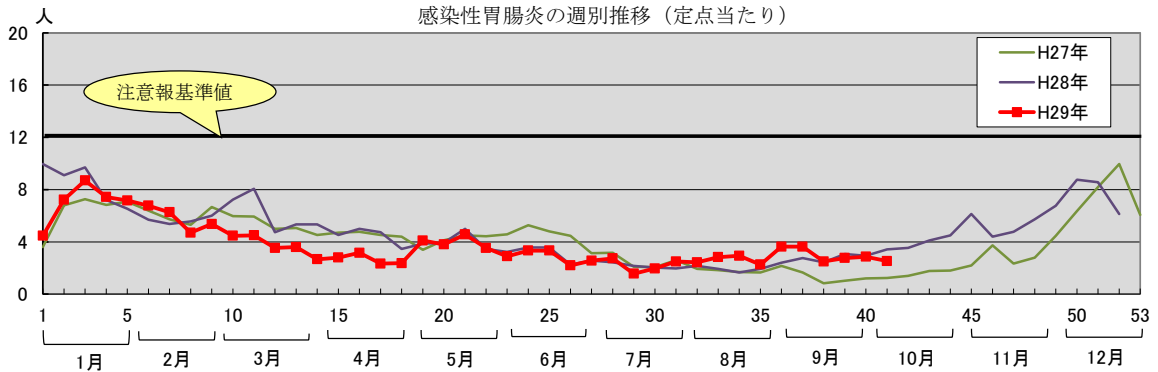
○RSウイルス感染症 第41週：2.50（注意報値：－ 警報値：－）

定点医療機関からの報告数は定点あたり2.50（前週：4.10）と減少しています。幡多1.20（前週：5.20）で急減、高知市4.00（前週：5.27）中央東2.29（前週：3.71）須崎2.00（前週：3.00）中央西1.67（前週：2.33）で減少しています。



○感染性胃腸炎 第41週：2.53（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.53（前週：2.87）と横ばいです。安芸 2.00（前週：5.00）幡多 0.60（前週：1.40）で急減していますが、中央東 3.00（前週：2.43）須崎 2.00（前週：1.50）で増加しています。



★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	92	70歳代女	安芸
		1		70歳代女	高知市
		1		15～19歳代女	幡多
		1		50歳代男	
5類	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	2	60歳代男	高知市
	梅毒	1	16	40歳代男	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	早明浦病院小児科	E.coliO-18+E.coliO-01+カンピロバクター同時感染1例（2歳男） RSウイルス感染症6例 （7ヶ月女、8ヶ月男、10ヶ月男、1歳男2人、2歳男）
	おひさまこどもクリニック	カンピロバクター腸炎1例（5歳男）
高知市	高知医療センター小児科	RSウイルス感染症4例（0ヶ月男2人、5ヶ月女、1歳男） ノロウイルス1例（1歳男）
	福井小児科・内科・循環器科	RSウイルス感染症3例（1歳男2人、1歳女） 溶連菌感染症8例 手足口病1例 ヘルパンギーナ1例
	三愛病院小児科	ノロウイルス胃腸炎1例（11ヶ月男） アデノウイルス感染症1例（2歳男）
	けら小児科・アレルギー科	ノロウイルス胃腸炎6例（1歳5人、4歳） アデノウイルス咽頭炎2例（1歳、11歳） 病原性大腸菌O-25腸炎1例（40歳） マイコプラズマ肺炎1例（9歳）
	細木病院小児科	ノロウイルス2例（1歳男女）
中央西	石黒小児科	マイコプラズマ肺炎1例（18歳女） 左眼単純ヘルペス1例（10歳女） アデノウイルス1例（3歳男）
須崎	もりはた小児科	RSV感染症4例 感染性胃腸炎4例（ノロ陽性3例、カンピロバクター1例） 水痘4例（1例ワクチン1回済み）
幡多	さたけ小児科	マイコプラズマ3例（4歳女、6歳男、9歳男） RS1例（2歳：終息した）

★全国情報

第39号(9月25日～10月1日)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核368例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症116例、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎4例、A型肝炎2例、重症熱性血小板減少症候群1例、つつが虫病1例、デング熱7例
日本紅斑熱15例、レジオネラ症44例、レプトスピラ症1例

5類感染症：アメーバ赤痢19例、ウイルス性肝炎1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症22例
急性脳炎10例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例
後天性免疫不全症候群16例、侵襲性インフルエンザ菌感染症3例
侵襲性肺炎球菌感染症22例、水痘（入院例に限る）1例、梅毒89例、
播種性クリプトコックス症3例、破傷風4例、風しん2例、麻しん4例

報告遅れ：エキノコックス症2例、デング熱1例、日本紅斑熱3例、レジオネラ症7例

レプトスピラ症1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症13例、急性脳炎2例

劇症型溶血性レンサ球菌感染症8例、水痘（入院例に限る）1例、梅毒67例

播種性クリプトコックス症1例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第41週 平成29年10月9日(月)～平成29年10月15日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(40週)	高知県(41週未累計) H29/1/2～H29/10/15	全国(40週未累計) H29/1/2～H29/10/8
インフルエンザ*	インフルエンザ		3						3 (0.06)	(0.00)	1,047 (0.21)	14,652 (305.25)	1,371,546 (277.53)
小児科	咽頭結核熱		1	3	1			1	6 (0.20)	13 (0.43)	1,377 (0.44)	358 (11.93)	67,888 (21.50)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3	17	1	3		6	30 (1.00)	54 (1.80)	5,269 (1.67)	2,086 (69.53)	276,164 (87.48)
	感染性胃腸炎	4	21	40	4	4		3	76 (2.53)	86 (2.87)	9,933 (3.15)	4,648 (154.93)	659,116 (208.78)
	水痘		1	1	1	4			7 (0.23)	8 (0.27)	724 (0.23)	469 (15.63)	42,390 (13.43)
	手足口病		2	11				5	18 (0.60)	17 (0.57)	6,676 (2.12)	3,121 (104.03)	311,332 (98.62)
	伝染性紅斑								(0.00)	(0.00)	136 (0.04)	109 (3.63)	9,734 (3.08)
	突発性発疹		1	4				1	6 (0.20)	11 (0.37)	1,311 (0.42)	435 (14.50)	57,754 (18.29)
	百日咳								(0.00)	1 (0.03)	32 (0.01)	22 (0.73)	1,223 (0.39)
	ヘルパンギーナ		2	4					6 (0.20)	8 (0.27)	1,541 (0.49)	516 (17.20)	77,815 (24.65)
	流行性耳下腺炎			3					3 (0.10)	1 (0.03)	1,052 (0.33)	183 (6.10)	66,556 (21.08)
RSウイルス感染症		16	44	5	4		6	75 (2.50)	123 (4.10)	6,155 (1.95)	1,377 (45.90)	104,595 (33.13)	
眼科	急性出血性結膜炎								(0.00)	(0.00)	5 (0.01)	(0.00)	340 (0.49)
	流行性角結膜炎								(0.00)	1 (0.33)	587 (0.85)	13 (4.33)	20,047 (28.89)
基幹	細菌性髄膜炎		1						1 (0.13)	(0.00)	10 (0.02)	3 (0.38)	404 (0.85)
	無菌性髄膜炎								()	(0.00)	16 (0.03)	7 (0.88)	770 (1.61)
	マイコプラズマ肺炎			1					1 (0.13)	(0.00)	153 (0.32)	75 (9.38)	6,080 (12.75)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1					1 (0.13)	(0.00)	7 (0.01)	10 (1.25)	206 (0.43)
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)								()	1 (0.13)	3 (0.01)	87 (10.88)	4,868 (10.21)
計 (小児科定点当たり人数)		4 (2.00)	51 (6.99)	129 (11.54)	12 (3.99)	15 (7.50)	22 (4.40)	233 (7.62)			36,034	28,171 (749.36)	3,078,828
前週 (小児科定点当たり人数)		14 (7.00)	56 (8.00)	176 (15.81)	15 (4.99)	17 (8.50)	46 (9.20)		324 (10.74)				

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(40週)	高知県(41週未累計) H29/1/2～H29/10/15	全国(40週未累計) H29/1/2～H29/10/8
インフルエンザ*	インフルエンザ		0.27						0.06	0.00	0.21	305.25	277.53
小児科	咽頭結核熱		0.14	0.27	0.33			0.20	0.20	0.43	0.44	11.93	21.50
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.43	1.55	0.33	1.50	1.20		1.00	1.80	1.67	69.53	87.48
	感染性胃腸炎	2.00	3.00	3.64	1.33	2.00	0.60		2.53	2.87	3.15	154.93	208.78
	水痘		0.14	0.09	0.33	2.00			0.23	0.27	0.23	15.63	13.43
	手足口病		0.29	1.00				1.00	0.60	0.57	2.12	104.03	98.62
	伝染性紅斑								0.00	0.00	0.04	3.63	3.08
	突発性発疹		0.14	0.36				0.20	0.20	0.37	0.42	14.50	18.29
	百日咳								0.00	0.03	0.01	0.73	0.39
	ヘルパンギーナ		0.29	0.36					0.20	0.27	0.49	17.20	24.65
	流行性耳下腺炎			0.27					0.10	0.03	0.33	6.10	21.08
RSウイルス感染症		2.29	4.00	1.67	2.00	1.20		2.50	4.10	1.95	45.90	33.13	
眼科	急性出血性結膜炎								0.00	0.00	0.01	0.00	0.49
	流行性角結膜炎								0.00	0.33	0.85	4.33	28.89
基幹	細菌性髄膜炎		1.00						0.13	0.00	0.02	0.38	0.85
	無菌性髄膜炎								0.00	0.00	0.03	0.88	1.61
	マイコプラズマ肺炎			0.20					0.13	0.00	0.32	9.38	12.75
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			0.20					0.13	0.00	0.01	1.25	0.43
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)								0.00	0.13	0.01	10.88	10.21
計 (小児科定点当たり人数)		2.00	6.99	11.54	3.99	7.50	4.40	7.62			749.36		
前週 (小児科定点当たり人数)		7.00	8.00	15.81	4.99	8.50	9.20		10.74				

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2017年10月16日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。